

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077500132
法人名	有限会社 ひがし
事業所名	グループホーム三春
所在地	福岡県うきは市浮羽町三春1982-1 (電話) 0943-77-1300

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 24日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.95人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円	
敷金	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円) 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月7日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	9 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上田内科医院、筑後川温泉病院、田主丸中央病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は小高い場所にあり、遠くの間々や美しい夕陽を眺めることができ、環境に恵まれている。事業所の周りは花が植えられ、前には事業所で造っている菜園がある。裏手に散歩道があり、自然を取り入れた日常生活を利用者は送っている。食事時は全職員と同じテーブルで和気あいあいと話し、笑い、また日常生活の中で利用者の得意な事を披露する機会をつくる等、一人ひとりを大切にしたケアを実践している。施設長から職員まで、地元福祉に貢献したいとの想いがあり、職員会議では事業所の更なる発展に向け建設的意見が多く出る等、職員の意欲が伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、非常災害対策、身体拘束廃止、衛生管理、注意の必要な物品のマニュアルを作成し、研修記録等も作成している。また、人権擁護についての研修や家族への説明を行う等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で考え、最終的に各ユニットリーダーと管理者で作り上げた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催している。利用者の状況や今後の活動計画の報告等を行い、意見交換等を行っている。委員の呼びかけで、花見や梨狩りを実施する等、サービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>玄関に意見箱を設置している。利用時に書面で第三者相談窓口について説明し、家族等の来訪時に希望や意見等を聴取するよう努めている。利用者に対する積極的な声かけや外出の機会を増やす等、意見を運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会を通じて、事業所便りを近隣の行政区へ配布し、地元の小・中学校や公民館等に置いている。また、ボランティアのコンサート受入れ、事業所でのイベントに地域住民の参加がある。近隣からは野菜や果物の差し入れがあり、日常的に見学を受入れる等、地元の人々と交流することに努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、その一部に「地域に密着して利用者が家庭的な環境の中で日常生活を送る」とあり、地域密着型サービスの視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝の申し送り時に全職員で唱和し、利用者を尊重し安心して過ごせるよう言葉かけや態度等に気を配り、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じて、事業所便りを近隣の行政区へ配布し、地元の小・中学校や公民館等に置いている。また、ボランティアのコンサート受入れ、事業所でのイベントに地域住民の参加がある。近隣からは野菜や果物の差し入れがあり、日常的に見学を受入れる等、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で考え、最終的に各ユニットリーダーと管理者で作上げた。前回評価での改善課題については、非常災害対策、身体拘束廃止、衛生管理、注意の必要な物品のマニュアルを作成し、研修記録等も作成している。また、人権擁護についての研修や家族への説明を行う等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している。利用者の状況や今後の活動計画の報告等を行い、意見交換を行っている。委員の呼びかけで、花見や梨狩りを実施する等、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	週1回程度、行政へ出向き、事業所便りやパンフレットを持参し、担当者と事務的な事や運営について等、現状を話している。事業所のイベントに行政担当者が参加する等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、全利用者や家族へ入居時に説明している。また、制度に関して職員の周知を図り、内部研修をしている。研修に参加できない職員は、後日、資料にて学習している。	○	研修資料等は、職員がいつでも確認できるように事業所で保管してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便り及び手紙や写真を家族へ送付している。また、家族来訪時に暮らしぶりや健康状態等を報告し、緊急時には電話連絡をしている。金銭管理については、利用者毎にノートに整理して鍵付き保管庫に管理し、家族が確認したサインがある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。利用時に書面で第三者相談窓口について説明し、家族等の来訪時に希望や意見等を聴取するよう努めている。利用者に対する積極的な声かけや外出の機会を増やす等、意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動する場合は、利用者のダメージを防ぐため、十分な引継ぎ期間を設けている。また、日常的にユニット間で交流を図り、利用者や職員が顔馴染みになるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に差別はなく、配置・昇進・教育・定年・退職等においても差別はない。誰もが安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関するテキストを準備し、全職員を対象に内部研修を実施している。</p>	○	<p>内外研修を実施した際は、研修資料と記録を残し、職員がいつでも確認できるように事業所で保管してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は日常的に学ぶことを推進し、出来る範囲で日勤対応での研修及び自己研修のための研修会の案内をしている。また、毎月内部研修を実施し、外部研修報告の場ともなっている。勤務年数に応じた外部研修への参加の機会を設けている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護保険サービス事業浮羽連絡協議会グループホーム部会に加入し、管理者・職員共に参加している。また、他事業所への見学や交流等で、利用者への対応や事務処理の効率化等を話し合い、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や体験入所を行い、また、自宅や病院等へ訪問を行っている。やむをえず即入居になった場合は、家族の協力や職員の声かけ等で、利用者が安心感を持てるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や掃除等の家事をともに行い、季節行事の決まり事や、昔からの言い伝え等、職員が知らない生活の技を覚えてもらう場面がある。畑仕事、漬物漬けやカラオケ、踊り、三味線等、利用者の得意分野を發揮してもらいながら、職員と利用者がともに過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声かけし、行動や表情からも思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からも情報を得るようにし、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族から聴取した情報や意見・希望を全職員でミーティングし、職員の気づきや意見・アイデアを反映させた利用者一人ひとりの介護計画を作成している。家族の了解の押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月介護計画を確認し、3ヶ月または6ヶ月に1回見直しを行っている。状態変化時には随時見直しを行い、電話にて家族へ連絡し、その後再度報告する等、常に現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所は、24時間受診可能な医療機関を確保している。通院介助は、家族の依頼で職員が行っている。利用者が入院した場合は、管理者等が見舞い、医療機関と連携を図って早期退院に努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前のかかりつけ医や希望の医療機関への受診を支援している。送迎は基本的には家族で行うと合意しているが、家族からの依頼で職員が代行する事もあり、その際は情報を家族へ伝えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にむけた対応について方針がある。入居時や折に触れて説明して、利用者、家族、医療機関、職員の全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては管理者が外部研修を受講し、職員に伝達している。さりげない言葉かけや目立たない対応等に心がけ、職員の不適切な対応の場合は管理者がそれとなく注意している。また、他の家族にプライバシーに関する話をしないように意識化している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのしたいことを把握し、買い物や散歩等、個別性の支援をしている。一人ひとりのペースを大切に寄り添い、その人らしい暮らしの支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に片付けをしている。また、同じ食事を同じテーブルで、楽しく会話を交わしながら食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな時間は決まっているが、毎日利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、畑仕事、カラオケ・踊り発表会、掃除、洗濯等の家事、漬物漬け、裁縫等、一人ひとりが役割と楽しみのある日々の支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の健康状態に配慮しながら、毎日裏手の散歩道での散歩や買い物を支援している。また、季節の花の花見や温泉へのドライブ、外食等、利用者一人ひとりの希望にそった外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はない。玄関にセンサーを設置しているが、職員は利用者の外出傾向を把握し、職員同士の声かけ等、連携と見守りを行っている。地域住民へは電話番号を記載した事業所便り等で見守り、声かけをしてもらえるよう配慮している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、防災訓練を行っている。マニュアルを作成し、職員は避難場所・避難経路・連絡法を周知している。地域へは呼びかけをしている。	○	非常食や備品の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の全利用者分の記録がある。献立は利用者一人ひとりの嗜好を考慮し、複数の職員が栄養バランスに配慮しながら、会議で作成している。</p>	○	<p>最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節の花を、ホールには野の花を飾り、見やすいカレンダーを掛け、自然な明るさを採り入れる等、家庭的雰囲気配慮している。職員の声やテレビの音の大きさは適切で、居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は押入れがあり、畳敷きでベッドや椅子、整理ダンス、家族写真等を持ち込み、窓のカーテンも利用者の好みのものである。全居室からは周りの緑が見渡せ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。